

西諸県地域の普及活動

令和7年12月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 12月期子牛郡品評会が開催

8日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年12月期子牛郡品評会が開催されました。

12月13日から15日に開催される12月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た36頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、壹等賞に16頭、貳等賞に12頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の大久津秀文さん出品の「りづむ」号（勝美利一宗守富士一忠国桜）、2席は小林市の門松幸夫さん出品の「あられ」号（羅旺45一耕富士一安秀平）、3席は小林市野尻町の立山淳二さん出品の「あい599」号（羅旺45一耕富士一美穂国）が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、輪郭鮮明との講評でした。



【みく号】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

22日に、えびの市で既に就農を開始している新規就農者1者に対して就農相談会を開催し、現在の就農状況の確認や認定当時に立てた計画の見直しについて検討を行いました。

また、24日には高原町で果樹での就農を検討している1者に対して就農相談を行いました。新規就農の認定計画の策定に向けご本人の生産技術の確認、現在の圃場の確保状況、将来の目標の整理、就農のために必要な確認事項の整理等が行われました。

今後は、支援策の検討を含め、就農計画の策定を支援していく予定です。

※就農相談対応 2者2回

(内訳 えびの市：水稻他1者、高原町：果樹1者)

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

2) にしもろサップ冬期大会を開催

17日に、普及センターで、にしもろサップ会員11名（小林市SAP：6名、えびの市SAP：5名）及び地域関係機関の参加のもと、令和7年度にしもろサップ冬期大会が開催されました。大会では、農業経営の改善に向けたプロジェクト発表、自分の農業に対する思いを発表する意見発表、会員全員がそれぞれに取り組む1人1課題プロジェクトの報告が行われました。

プロジェクト発表及び意見発表に対しては、関係機関や農業経営指導士で構成する審査員の方々から取組内容や説明のまとめ方等についての助言をいただきました。

なお、今大会で発表されたプロジェクト発表1課題と意見発表2課題については、1月20日に県総合農業試験場で開催される県SAPグランプリで発表が予定されています。より良い発表ができるよう普及センターとしても引き続き支援していきます。



【経営改善に向けたプロジェクト発表と農業への想いについての意見発表】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) ミシマサイコ(薬草)出荷調整検討会を開催

8日に、小林市野尻及び高原町において、ミシマサイコ出荷調整検討会を開催し、生産者6名、関係者4名（JAこばやし地区、普及センター）が参加しました。

初めに、生産者ほ場（小林市野尻町）でミシマサイコの試し掘りを行い、その後、JAこばやし出口支所（高原町）に移動し、機械による洗浄と調整作業（はさみで不要部分の除去）の確認を行いました。ミシマサイコは、細やかな調整作業が必要なことを実感していました。

今後もミシマサイコの生産振興に向けて関係機関と連携した支援を行って参ります。



【ミシマサイコ出荷調整研修】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) ほうれんそうの定点調査を実施

3日、5日、10日、19日に、小林市野尻町とえびの市の畑でほうれんそうの定点調査を行いました。概ね順調な生育でした。定点調査は、県内の主要産地で同時に実施しており、地域ごとの生育状況や生理障害を共有し、安定生産につなげるためのものです。

今後は、得られた生育調査・収量データと、ほ場条件や気象要因を関連付け、生産者へ情報発信を行っていきます。

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現) 及び(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) 水田・畑作合同交流会を開催

16日に、普及センターにおいて水田営農経営体3法人・5戸、露地生産法人4法人（参加者数14名）を参集し、水田・畑作合同交流会を開催しました。

交流会では、令和7年度に取り組んだ省力化水稻栽培技術及び飼料用米新品種の展示ほの結果について、普及センターから説明を行いました。

また、農業流通ブランド課輸出・流通担当の松宮主幹より、輸出に関する取組事例及び情勢について、中村剛氏より排水対策の基本、レベラーの効果や緑肥等について講演していただきました。

参加者からは、県内の米の輸出の取り組み事例や耕盤破砕についての質問が出ていました。

また、「栽培技術等の情報が得られた。」、「他の生産者と交流が図れることがあるがたい。」という意見が聞かれました。



【ノウハウを共有する農業者】

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会の実施

13~15日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開催前に講習会を行いました。今月の講習会では、普及センターから「飼料作物（春夏作）の品種選択」を、また都城家畜保健衛生所から「牛伝染性リンパ腫(BL)～BLを知り、対策する～」をテーマに講習会を行い、延べ130名程度の参加がありました。

参加者からは、ソルガムの収穫時期に関する質問が寄せられ、当講習会を通して収穫適期について認識を深めるきっかけとなったようでした。

今後も継続して、基本技術の紹介を行っていきます。



【講習会に参加する農業者】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) えびの市いちご部会栽培講習会

2日に、JAえびの市本所において、えびの市いちご部会を対象とした栽培講習会が開催され、生産者20名が参加されました。普及センターからは、現在管内で被害の多いうどんこ病への対応方法や厳寒期での管理ポイントなどについて説明しました。生産者からは、うどんこ病に効果のある農薬や環境管理について質問がありました。

現在、いちごは第1次頂果房の収穫がピークを過ぎ、第1次腋果房の時期になっていています。収量を確保出来るよう、今作はうどんこ病などの病害虫防除指導を重点的に実施していきます。



【指導員からの説明を聞く部会員】

2) モデル農家支援（えびの市、いちご）

16日に、えびの市いちご団地において、いちごのモデル農家としている生産者1名に対して栽培及び経営支援を実施しました。まずは場で栽培状況を確認し、その後室内で、経営分析の結果に基づいた現状の把握と今後の取組内容の整理を行いました。生産者からは、自分の経営状況を把握することができて良かったとの意見を頂きました。

引き続き、モデル農家の経営安定に向けて、栽培と経営の両方の視点から重点的に支援を行っていきます。



【経営分析結果を聞く生産者】

3) JAこばやし促成きゅうり巡回指導

JAこばやしの促成きゅうりは、11月から出荷が始まり、翌年6月頃まで栽培が行われます。その中で、JAの営農指導員と連携し、12月から4月までの毎週木曜日に、部会員のほ場で生育調査を実施するとともに、環境モニタリング装置で収集した環境データに基づいた栽培管理指導を行っています。また、今作は新しい品種が多くのは場で導入されていることから、品種特性にあわせた管理を確立するため、定植時期が異なるほ場毎の生育状況の比較や生産者への管理状況の聞き取り、メーカーとの合同巡回による品種特性の把握などを行っています。

今作も多くのきゅうりが出荷できるよう、生育や環境データに基づいた指導を行っていきます。



【データに基づいた指導を行う指導員】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果樹農業振興推進対策協議会及びJA梨ぶどう生産部会の合同冬季研修会

15日に、普及センターにおいて、研修会が開催され、生産者21名、関係機関4人が参加しました。試験場専技センターの黒木専技が講師を務め、①宮崎方式ICM②ぶどうのハダニ対策③梨の日焼け果対策④シャインマスカットの未開花症の対策について説明されました。説明の中で土壤深耕についての話が出たときには、生産者から時期やタイミング等の質問が出されるなど、熱心に勉強されていました。研修の最後で、普及センターから土の硬度を計測できる貫入式土壤硬度計につ

いて紹介したところ、1名の生産者から「園地の土の硬度を測定してほしい」との依頼があったことから、今回の研修は土壤深耕の重要性について考える良い機会になったと感じます。

土壤改良・深耕は、収穫後の秋に行うことが多いため、秋前には巡回等で周知していきます。



【熱心に説明を聞く参加者】

2) JAこばやしマンゴー部会全体研修会

18日に、JAこばやし三ヶ野山出張所において、JAこばやしマンゴー部会全体研修会が行われ、部会員約25名、関係機関6名が参加しました。普及センターからは、①9月の総会で実施した炭疽病・軸腐病対策アンケートの結果報告②2年連続CO₂施用した場合に品質・収量に与える影響についての調査結果の報告③10月に実施したおてつたび・お試し就農の報告④第三者承継に関するアンケートを実施しました。④については2年前に一度調査を行いましたが、改めて調査を行ったものです。今後はアンケート調査結果をまとめるとともに、巡回等で部会員の話を聞いていきたいと思います。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) 西諸管内のラナンキュラス作付け調査

9日に、西諸県花き技術員会員3名が、JAえびの市管内のラナンキュラス生産者2戸の作付け調査を実施しました。10月下旬から11月下旬までに定植されており、品種ごとの活着数や生育状況について情報共有することができました。

今年は生育が昨年よりも順調で、心配された腐敗や立ち枯れもなく、今作に期待する声も聞かれました。引き続き関係機関で協力し、良品生産に向けて支援していきます。

2) ラナンキュラス栽培支援

随時、西諸県管内のラナンキュラス切り花生産者9戸と球根生産者1戸のほ場巡回及び技術支援をしています。

23日には高原町と小林市内の生産者7戸のほ場を巡回しました。生産者ごとに生育のバラツキはあるものの、問題となる病害虫の発生も無く順調に生育しており、今後のかん水管理等について注意点を説明しました。

年明けから本格的な出荷が始まるので、安定出荷に向けた支援を引き続き行います。

3) 高原町花卉部会の定例会が開催

29日に、高原町管内において定例会が開催され、生産者7名、関係機関5名が参加しました。まず、JAから情勢報告があり、12月末出荷の状況について説明されました。普及センターからは、栽培終了後の土壌分析と診断結果に基づく施肥の実施を呼びかけたところ、分析してみたい旨の要望もありました。

単価安や資機材高騰など、キクの生産には厳しい状況が続きますが、引き続き関係機関と協力し、部会活動を支援していきます。

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 茶の肥料・農薬座談会の開催

5日に、小林市内において、西諸県茶業振興協議会を対象に、令和8年産の茶生産に向けた肥料・農薬座談会が行われ、茶生産者14名および関係者(JA、市町、肥料・農薬メーカー、振興局、普及センター)が出席しました。

普及センターからは、茶栽培こよみの説明や省力・低コスト肥料試験に関する情報提供を行いました。

今後も、茶の生産性向上に向けた資材の検討や各種の情報提供を行って参ります。



【肥料に関する説明】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 第3回水稻栽培講習会

9～10日に、小林・高原において第3回水稻栽培講習会を開催し、当管内の生産者41名が参加しました。

講習会の内容は、今年度の普通期水稻作況、来年度に向けてやるべきこと、水稻の年間スケジュール、水稻省力化技術について基礎的な内容を説明しました。特に新品種「南海189号」については質問が多く、期待している生産者が多いようでした。

今後は講習会の内容を生かし、関係機関と連携を図りながら生産者への支援を行っていきます。



【説明に熱心に聞き入る生産者】

2) JAえびの市ピーマン部会第39回定期総会

19日に、道の駅えびのにおいて、えびの市ピーマン部会の定期総会が開催されました。令和6年度分の総会でしたが、滞りなく行われ、議事ではすべての議案が可決されました。部会長あいさつでは、高温対策を行うことで収量向上を目指していきたいとの言葉がありました。普及センターとしては来作以降も引き続き、高温対策の技術指導を行っていきます。



【議事を進める部会員】

3) 第15回メロン・マンゴーフェア実行委員会役員会の開催

26日に、三ヶ野山出張所において標記実行委員会の役員会が開催されました。役員会では、今年の実績報告がされた後、メロン及びマンゴーの生育状況の説明と第15回フェアの開催方法について検討が行われ、「今後はネット注文の強化をしていきたい」、「対面販売でお客さんの購買意欲を高めたい」などの意見が出ました。JAこばやし管内においては恒例の一大イベントですので、生産者と関係機関が一体となり盛り上げていきたいと思います。

4) きんかん視察対応

5日に、JAこばやしきんかん部会員の園地において、JA宮崎中央きんかん部会の視察が実施され、園主2名、JA宮崎中央きんかん部会員約20名、関係機関5名が参加しました。JA宮崎中央の生産者からは、「実が大きくて揃っている」「枝が充実している」「管理が上手」等の意見が出ており、勉強になっている様子でした。引き続き関係機関と連携して、栽培支援を行っていきます。



【JA担当者の説明を聞く参加者】